

【資料 4】

認知症への理解増進セミナー
～認知症本人からのメッセージ～

おおさか希望大使 松田 末男
八尾市認知症地域支援推進員 山本 哲也

おおさか希望大使 松田 末男(まつだ すえお)さん

八尾市在住。78歳（R7年8月末現在）
要介護1。長女と二人暮らし。



学校卒業後、工場で働いた後、配送ドライバーとして全国各地を回っていた。

74歳の時 レビー小体型認知症の診断を受ける。
診断後も、少しの間、限定的に配送ドライバーを続けていたが退職し、免許返納している。

認知症の診断後、認知症進行予防として地域活動へ積極的に参加している。

主な活動として
オレンジパトロール、オレンジミーティング、オレンジカフェ
おれんじ教室“脳りちゃん”に参加している。

【今の生活での一番の楽しみ・心がけていること】
公共機関を利用してお孫さんに会いに行くこと
認知症になっても、脳トレ、運動、人との交流や笑いのある生活を大切と感じている。

診断前後について（本人の言葉を紹介）

診断前

- 仕事で全国すべて車で走っている。福井に行ったときに“こんなにたくさんのお蟹がでるのか！”というくらい食べたことがあった。
- 夜中に大きな寝言をいっていたり、夢の中で人を振り払おうとしたことがあり朝起きたら壁に大きな穴があいていたことがあった。

診断

- “認知症と言われたときには、大腸がんをしたがそれより愕然とした。”

診断後

- “認知症の現役です。宜しくお願いします。”
- “認知症になってみて初めて当たり前のことが当たり前にできることの難しさがわかった。”

現在の活動の様子



みんな
いいひとばか



自分の住む町のパトロール
と清掃活動もしてます

仲間といっしょに
社会見学もしてます



みんなで自分の思い
を話してます

カフェのマスター
はじめました

参加された方へのメッセージ

“認知症の人は何もできへん”って決めつけて接してくるでしょ。
“あれが辛い”、“**認知症になってもまだまだできることもある**”

認知症になってはじめはショックなことの方が多かった。でもこの
病気（認知症）になったからいままで**経験したことのない体験**をさ
せてもらったり、病気にならなかったらいままで**出会わなかった人**
ともつながったのでよかったと思うこともある。

できるだけ多くの人**が認知症のことをちゃんと（正しい知識、理**
解）してもらえればいいと思う。そして、みんな**が（認知症の人**
に）優しく接してくれることで認知症になっても前向きに過ごせる
社会になって欲しい。

ご清聴ありがとうございました。

